

我が国のBSE感染状況の評価 (平成25年度レギュラトリーサイエンス新技術開発事業成果)

1. シミュレーションモデルによる推定

(1) 目的・方法

- ① 動物衛生研究所の開発したシミュレーションモデルにより、1995年から2001年までの7年間（飼料規制が行われておらずBSE感染の可能性が存在した期間）に生まれた牛のBSE感染頭数※を推定
- ② ①で推定した感染牛がいつまで生存するかを推定
- ※ これまでに日本では36頭の陽性牛が摘発されているが、
 ① BSEに感染しても摘発可能な月齢に達するまでに死亡する（と畜される）牛が存在すること
 ② BSE発生以前は大規模なサバゲーが実施されていなかったこと等の理由により、我が国のBSE感染牛頭数は、より多かったと考えられる。

(2) 結果

これらの感染牛は乳用牛、肉用牛とともに2010年には全て死亡したと推定
 → 日本にBSE感染牛が残っている可能性は極めて低い

2. BSEモデルによる推定

(1) 目的・方法

英國中央研究所等が開発したモデルにより、健康と畜牛、緊急と畜牛、死亡牛、臨床症状疑い牛の検査データから、誕生年毎のBSE感染牛頭数や、現存牛中の感染牛頭数を推定。

(2) 結果

2012年時点で生存している2歳以上の牛のBSE感染牛の最尤推定値（最ももつともらしい値）は、1万頭当たり〇頭。